

# 美浜の会ニュース

No. 117

2012. 5. 24

美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会 (代表) 小山 英之  
大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル3階 TEL 06-6367-6580 FAX 6367-6581 郵便振替: 00950-6-308171 (美浜の会)  
⇒ ホームページURL <http://www.jca.apc.org/mihama> ⇐

頒 価 300円  
購読料 年2千円

大飯3・4号 6月の再稼働策動を阻止しよう

## おおい町長と福井県・安全専門委員会に再稼働認めるな!の声を集中しよう

町長は、福島に行き事故の被害実態をまず確認すること  
町民説明会で出た意見に回答すること

県と安全専門委員会は、制御棒挿入性に関する関電の暴論を認めるな

安全審査指針がなくても「生の安全性がある」 (関電)

4月14日に枝野経産大臣が福井県知事やおおい町長等に大飯3・4号の再稼働を要請してから1ヶ月以上、5月5日に全原発が停止してから3週間が経過し、5月中には福井県知事が容認を表明するとされていたが、それもまだできていない。おおい町議会だけが5月14日に再稼働容認を決めたが、町長は5月中の判断は難しいと表明した。福井県の安全専門委員会も報告書をまとめることはできず継続審議となっている。専門委員会が報告書をまとめることができないため、町長も、県議会も判断が出せなくなっている。これらを受けた知事の判断はまだその先となる。

運動の焦点は、町長が簡単には判断を下せないような状況をつくり、再稼働容認の判断にストップをかけること、そして安全性問題で専門委員会・県への働きかけを強めることだ。地震動評価、とりわけ制御棒挿入性評価の問題を中心に、関電のクリフエッジ=炉心溶融一步手前まで人々を追い込む危険な暴論を広く宣伝し、批判の声を強めよう。全国の力で再稼働断念に追い込んでいこう。

### ◆福井県知事のいらだちと、国会での新規制庁発足審議の開始で乗り切ろうとする政府

再稼働が進まない中、福井県知事はいらだちを強めている。知事は24日の記者会見で「夏を迎えようとしているのに、いくら何でも政府の対応が遅すぎる。国益や長期的視点で原子力発電について、内閣として全ての国民にはっきり発言すべきだ」として、国の対応を批判し、圧力をかけている。反対姿勢をゆるめない関西の知事達に対しては「消費地が電気をいらないというなら、福井が無理をして動かす必要はない」と恫喝めいた発言までおこなっている。そして、「関西の同意を待っているわけではない。政府が姿勢を示すことで解決できる」として、なんとしても再稼働を押し進めようとしている。

野田総理は同日の国会答弁で「町議会が再稼働に同意されたのは重い。さらに県の考えをよく聞き、周辺自治体にも説明をしっかりとしながら、しかるべき時に判断したい」と発言し、現状では、おおい町議会の判断しか依拠するものがないことを露呈している。

このような状況の中、政府は新規制庁の発足の審議を進めることで、関西圏等の反対・慎重の声を封じ込めようと動き出した。これまでの、大飯3・4号だけを新規制庁発足前に再稼働させようとする政府の狙いは、そのあまりの拙速さに地元をはじめ、全国から批判を浴びている。とりわけ、4閣僚の判断基準が安全委員会の議論もなしに策定されたことに対して、関西の知事達は批判を強めてきた。政府は、消費税引き上げに関する国会審議が進まない中で、新規制庁設置の議論を先行させようとしている。野党欠席でも29日に審議入りし、再稼働を進めようとしている。

他方、国会の事故調査委員会は、現在も調査・検証中だ。事故調査委員会はこれまでの保安院、原子力安全委員会の規制の在り方そのものを総括したうえで、新規制庁の在り方を提言することになっている。福島原発事故に大きな責任をもつ政府の責任を明確にしないまま、看板だけを「新規制庁」としても何も変わらない。仮に設置が決まったとしても、新たな安全審査指針や規制の諸基準などの具体化はまだまだ時間がかかる。

大飯原発の再稼働にストップをかけているのは、福島原発事故の悲惨な実態に基づく全国的な脱原発の声であり、避難道路や免震事務棟等の先送り、地震動評価と制御棒挿入時間の評価などに関する耐震安全性のずさんさ等、安全性問題について政府と関電への不信がある。小浜市や30km圏内、被害地元の関西・岐阜などでの反対運動の力がある。そして、これらに加えて、地元であるおおい町の人たちが4月26日の町民説明会で、さまざまなしがらみを抱える中でも、批判や不安の声をあげ、それが日増しに強くなってきていることだ。

#### ◆おおい町長は判断を出す前になすべきことがある

5月17日におおい町で、福島から4名の方に来ていただき「福島の人たちとの交流・座談会」を開いた(10頁参照)。避難区域の大熊町・富岡町・飯館村・南相馬市から避難されている皆さんが、事故当時の様子等を生々しく語られた。それぞれの体験と原発事故を決して繰り返してはならないという思いは、おおい町の人たちの心に重く響いた。町の人たちからも拙速な再稼働に対する批判と不安、雇用問題で縛られている現状などが語られた。

翌18日には福島の人たちと共に町に要望書を提出した。座談会に参加された4名の町の皆さん、そして小浜、綾部からも参加された。福島の皆さんは、事故が起こってからでは取り返しがつかないこと、一度福島の現状を見てから判断してほしいと切々と訴えた。対応した町の企画課長は、当初20分だけと言っていたが、ときおり目を潤ませながら福島の人たちの話を聞き、申し入れは40分を超えた。おおい町から参加した人は、まず福島に行ってほしい、町民説明会で出た意見に対して回答すべきだと訴えた。企画課長は、4月26日の町民説明会で出た意見は、町長が再稼働について判断する場合の重要な判断材料になると回答した。この申し入れは、下記の3点を確認し、町に回答を求めている。町への申し入れを行った福井と関西の4団体は、町長宛に早期の回答を求める文書を5月24日に送った。これについて早急に回答し、判断を下す前に、下記を確実に実行するよう求めている。

- ①まず福島に行って、現状や被害の状況などについて見てくること。
- ②町民説明会で出た一つ一つの意見について町としての回答を示し、町の皆さんと話し合う場を持つこと。
- ③雇用問題について、町民説明会で国が述べた「雇用調整金などでやる」ということについて、具体的にどのように進んでいるのか、至急国に問い合わせること。



町民説明会では、発言者の多くが、拙速な再稼働について批判や不安を語った。5月18日の町への申し入れに参加した発言者は、「覚悟を決めて行って発言した。すると皆さんが不安だったことが分かった」と語った。また、「町議会は町民説明会を判断の対象から外してしまったが、町は説明会の主催者だ。町として説明会で出た意見をどう判断するのか明らかにすべきだ」と求めた。町長は、町の皆さんの声に応えなければならない。

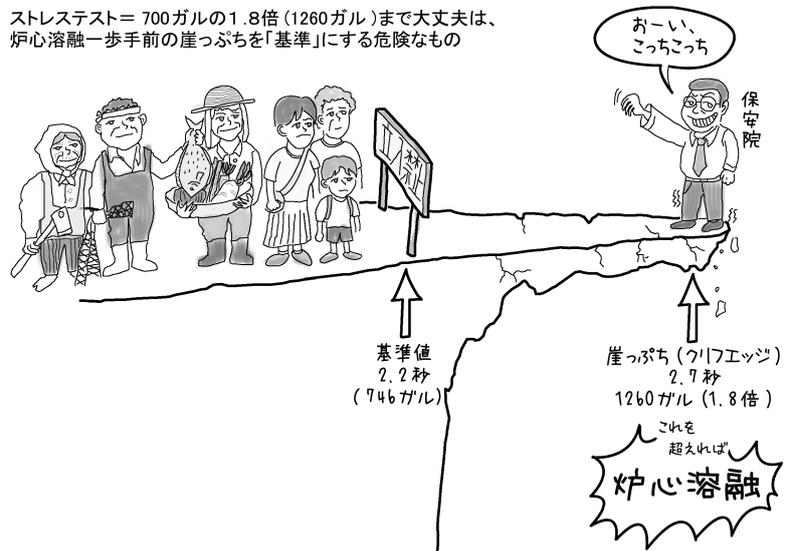
4月に行った戸別訪問アンケートでは、再稼働に対する不安として、事故の不安と同時に雇用の不安をあげる人が多かった（14頁参照）。さらに、立地町では、家族や親戚、友人が原発関連で働いている人が多い。そのため、町民説明会等で発言することは難しいと話されていた。それでも、そのような状況の中から出てきた町の人たちの声を大切に、町長がこのような声と向き合うよう全国から求めている。

#### ◆人々を炉心溶融の一手手前まで追い込む国と関電の暴論に批判の声を集中しよう

政府の大飯3・4号再稼働のための安全性評価には、根本的な矛盾がある。福島原発事故によって、長期の全電源喪失を事実上考慮しなくてもよしとしている安全設計審査指針等は破綻した。原子力安全委員会は、新たな指針案の策定を進めてきたが、その仕事は新規制庁でなされるべきものとして、3月末以降、機能停止状態にある（実際に5月15日の政府交渉についても、安全委員会事務局は「もはや語るものを持っていない」として出席を拒否した）。このような中で政府は、4閣僚の判断基準を示し、再稼働の判断基準とすると宣言した。その内容は、基本的に緊急安全対策とストレステスト結果を判断基準とするもので、免震事務棟の建設などは先送りしてもいいというものだ。大飯3・4号以外の原発の再稼働は、新規制庁が発足してからとしながら、大飯だけは例外だとしてしまった。すなわち、安全性確認の基礎である指針類が破綻したもとの、それなしに安全性の根拠を示すことができないもとの再稼働を強行するということだ。

そのため、関電と政府が主張する安全性の根拠は、「ストレステストによって基準地震動（700ガル）の1.8倍（1260ガル）まで耐えられる」ということに収れんされる。活断層の3連動を考慮しても「1.8倍以内に収まるために問題なし」としてしまふ。しかし、この1.8倍は、クリフエッジ＝炉心溶融の一手手前まで人々を追い込む危険な考え方だ。安全余裕

ストレステスト＝700ガルの1.8倍（1260ガル）まで大丈夫は、炉心溶融一手手前の崖っぷちを「基準」にする危険なもの



など一切考慮しない。こんな乱暴な論理で安全性は確認されているというのだ。

さらに、国が進めている耐震バックチェックの評価はまだ検討の途中段階だ。耐震安全性評価については、制御棒の挿入時間が評価基準値 2.2 秒を超える場合は、なんらかの手当（補強工事など）をしなければ運転することはできないと原子力安全・保安院は認めている。しかし、活断層の 3 連動の場合に、制御棒が評価基準値である 2.2 秒以内に挿入されるのかという評価については、再稼働前には行わないという。

また、大飯原発 1・2 号の斜面崩落の危険性について、保安院は報告書を出す予定としながら、その時期は未定だという。関電は 2014 年度から工事を行う計画だが、同じ敷地にある 3・4 号の斜面の安全性評価についても十分に検討されるべきだ。しかしこれも、再稼働とは別だという。

このように、耐震安全性評価も、斜面崩落の安全性評価も、新規制庁の発足も、避難ルート  
の複線化も、「再稼働の前提ではない」として、大飯 3・4 号の再稼働に突き進んでいる。

#### ◆関電の評価－3 連動で 760 ガルでも、制御棒挿入時間は基準値内に収まらない

5 月 21 日に行われた福井県の安全専門委員会では、活断層の 3 連動の場合の制御棒挿入性の問題と、斜面崩落の問題がテーマとなった。関電は、いくつかの周期では現行の基準地震動（700 ガル）の 1.4 倍に達することを認めながらも、「1.8 倍以内だから問題なし」と強調した。また関電は、3 連動の場合には基準地震動は 760 ガルと評価してきた。しかし、従来の関電の評価方法では制御棒挿入時間が評価基準値 2.2 秒に収まらないために、何度も「詳細評価」を繰り返し、700 ガルでの制御棒挿入時間の評価値を 2.16 秒から 1.88 秒に引き下げる小細工をろうしている。さらには、評価基準値は 2.2 秒ではなく、1.1 秒でも問題なしとする、安全余裕を一切無視した暴論を展開している（6 頁参照）。

福島原発事故後に、このように安全性をないがしろにする関電の暴論を宣伝し、批判の声を強めていこう。福井県と県の安全専門委員会に対して、このような関電の姿勢を認めないよう厳しく求めていこう。

#### ◆安全審査指針がなくとも「生の安全性がある」（関電）

大飯 3・4 号運転差し止め裁判の第 2 回審尋が 5 月 21 日に開かれた。ここでも関電は驚くべき暴論を主張している。関電が出した主張書面では、「安全性については安全設計審査指針等の存否で直ちに判断されるものではない」としている。これについて裁判長からたずねられると、「安全設計審査指針は廃止手続きをしていないので『ある』。また、指針と、安全性自体は別問題で、指針が仮に存在しなくても『生の安全性』は確保されている」と答えた。裁判長は「指針は廃止の手続きはされていないという意味では形としてはあるということだ。しかし、それが規範としてあるのかないのか、実際に判断に耐えるものかが問題だ」と重要な指摘をした。「生の安全性」とは、緊急安全対策とストレステストによる崖っぷち論に他ならない。さらに、「生の安全性」の中身については、「追って詳細に論ずる」として今回も主張しなかった。関電は書面では制御棒挿入性の評価が争点であることを認めながらも、原告主張に対する反論はいまだできていない。それにもかかわらず、運転再開はできるというのである。次回審尋は

7月9日となり、6月29日までに関電が書面を提出することとなった。法廷外の運動と連携して、6月中の再稼働にストップをかけていこう。

### ◆ 全国の運動の力で6月の再稼働策動を阻止しよう

大飯3・4号の再稼働を止める運動は、福井、関西、全国の力を結集して取り組まれている。

大飯原発の隣接小浜市では、5月1日に開かれた国の説明会で、市議会の原発特別委員会委員長も再稼働反対の意見を述べるなど厳しい意見が相次いだ。小浜市議会の多くの議員が福島に視察に行き、報告会も準備されている。

関西各地では、滋賀県、京都府と府内各市町、大阪府への申し入れなどを通じて、知事達が安易に容認できない状況を作っている。連日、各地で自治体との交渉や学習会、映画上映会等々が開かれている。細野原発担当相は19日に関西広域連合の会合に出席し、説得を試みた。しかし関西広域連合は22日、「安全性の確保について万全を期したとは言い難い状況にある」として、政府に再度の説明を求めている。岐阜では、若狭の原発群の風下であり被害地元であることを市民がねばり強く働きかけ、5月8日に県議会が大飯再稼働に反対する意見書を全会一致で採択した。関西では27日に「あかんで！大飯・伊方の再稼働5・27関西行動」集会・デモが行われる。

5月30日には原子力行政を問い直す宗教者の会が、全国の宗教者に呼びかけて福井県に再稼働反対の申し入れを行う。県庁ロビーを埋めつくそうと結集を呼びかけている。6月中旬(16か17日)には、福井県内の諸団体の呼びかけで集会が準備されている。

おおい町長、福井県安全専門委員会、県議会議員、県への働きかけを一層強めていこう。制御棒挿入性評価を中心とする安全性評価に関する関電と国の暴論を厳しく批判していこう。町長や県の安全専門委員会などに、再稼働を認めるなの声を集中しよう。

全国の運動の力で、6月の再稼働策動を阻止しよう。

#### ◆おおい町の時岡忍町長に手紙、電話、FAX、メールを送ろう

**福島に事故の被害実態を確認に行ってください**

**町民説明会で出た意見に答えてください**

〒919-2111 福井県大飯郡おおい町本郷第136号1番地1

電話：0770-77-1111 FAX：0770-77-1289 Mail:kikaku2@town.ohi.lg.jp

#### ◆福井県と安全専門委員会に、声を届けよう

**炉心溶融一歩手前まで人々を追い込む関電の危険な考えを認めないでください**

**制御棒挿入性に関する関電の暴論を認めないでください**

〒910-8580 福井市大手3丁目17番1号

電話：0776-20-0314 FAX：0776-21-6875 Mail:gennan@pref.fukui.lg.jp